

1. 基本高水の選択 (添付：専門部会報告) = 決定事項

専門部会の報告どおり、「H16 年型 4651 m³/s」の選択を決定。

したがって、流域対策によるカット分 111 m³/s を引くと 4540 m³/s となる。

2. 基本高水の流量の分担 (別表参照) = 集約または保留段階

< 提案の内容 >

流域対策 学校、公園、ため池、水田、防災調整池 計 111 m³/s

(数値化しないものも記載 = 森林、各戸貯留・雨水型施設、駐車場・棟間貯留、大規模開発への対策)

河道 3700 m³/s

(工事実施基本計画記載同等対策 = 河床掘削、築堤区間の引堤 4ヶ所、掘り込み区間の拡幅 2ヶ所、低水路拡幅、高水敷掘削等)

洪水調節施設 (貯留施設)

- ・河道と流域対策では基本高水の流量に対応できないために、残りを洪水調節施設で分担する。
- ・その場合には、新規ダムを含めた 3つの洪水調節施設のいずれも、それぞれに抱えている問題点を検討する課題が残っており、現時点ではいずれかを選択することは困難である。不足分は 3つの洪水調節施設的具体化を今後長期的に検討していく中で、その分担を決める。その際には、新規ダムの代替施設である遊水地や既存ダムの活用を優先して検討する。

洪水調節施設については 4名の委員から「新規ダムなしでも対策が可能なメニューが出てきているので、基本方針でも新規ダムは入れないことを明記すべきだ」という意見があった。(当日は時間がなく途中で打ち切ったが、他には同じ意見がないかどうかの確認が必要)

3. 整備計画の目標流量と分担の選択 = 集約、意思表示の段階

1) 目標流量の選択

< 提案の内容 >

実現可能な対策を積み上げることによって見通しのつく流量 3400 ~ 3500 m³/s

1/30 規模に近づくために、に加えて千苅ダムを増量し、3700 程度

1/30 規模に近づくために、千苅の増量が難しい場合には遊水地の(2)を加え 3600 程度

以上の 3つの選択肢は、いずれも新規ダムを位置づけない考え方にもとづく

1/30 規模 (3882 m³/s) を達成するために、新規ダムを位置づける

挙手による意思表示の結果は下記の通り

は 6名 (奥西、川谷、畑、茂木立、谷田、山仲)

は 10名 (池淵、法西、村岡、伊藤、岡田、酒井、佐々木、田村、土谷、中川)

はゼロ

は A 案(代替策で 3800 m³/s に近づける努力をするべきだが、代替策ではダメな場合には新規ダムも対象にする) 2名 (加藤、草薙)

B案(3882 m³/sを達成するために、新規ダムを位置づける) 1名(松本俊治)
保留 1名(浅見:千苅ダムの検討材料がない)

のうち2名は、「できることなら を選択したいが、達成は困難であるという見通ししか持てない」と表明し、 が可能なら目標値の上乗せを図りたいという意思が示された。

4 . 整備計画流量の分担 = 集約および意思表示の段階

< 提案の内容 >

流域対策 学校、公園は100%、ため池は50%の進捗をめざす。

水田は10%から70%の範囲の案をさらにWTで検討する

河道対策 2800 m³/s (引堤は含まない)

洪水調節施設

- ・既設ダムの治水活用は、青野ダムの現行治水容量(効果量ベース)250 m³/sに加えて、事前放流によって50 m³/s増大する。
- ・丸山ダムは、既存の放水ゲートを活用し、事前放流で42 m³/sを確保する。
- ・千苅ダムは利水専用ダムのまま放流施設を一部改造し、事前放流によって173 m³/s確保。
- ・遊水地は県有地を活用し、50 m³/sの効果を持たせる。

洪水調節施設では、千苅ダムの全量治水転用または治水・利水・環境の3つの機能を併せ持つ多目的ダム化を図ることによって、治水効果量の増大を図る。

流域委員会としては、圧倒的多数が整備計画では新規ダムを位置づけない、または新規ダム以外を優先的に検討するという意思を表明した。現時点では、新規ダムなしでもかなりの目標流量への対応が検討可能になっており、新規ダムの持つ環境課題を乗り越えてダムを選択することは困難である。

5 . 千苅ダムの緊急提言を採択 = 決定事項

速やかに知事と神戸市に提出する